

中村の地名

—大字と小字—

中村小

上原祥男

1. はじめに

私達は、土地の上に生活し、土地の恩恵によって生活している。その土地には、それぞれ名がつけられています。その地名は、その土地に生活してきた人も知られていない人々によって名付けられたものです。ですから、地名は土地を語り、歴史を語るものです。それ故、「地名は貴重な文化遺産」である。と考えることができます。

私達自身、自分に関係ない土地に関心があるでしょうか。関係のない土地に関心はありません。でも、自分に関係がある土地ならば、細かい道まで覚えています。そのことから、地名は、その土地を使用するか、その土地に名前をつける必要があつてつけられたものと考えられます。

では、どのようにして地名をつけたのでしょうか。各種の地名研究の本を見ても「正確な起源は不明である」と書かれているが、地名のつけ方は四つに分類できると言われています。それは、

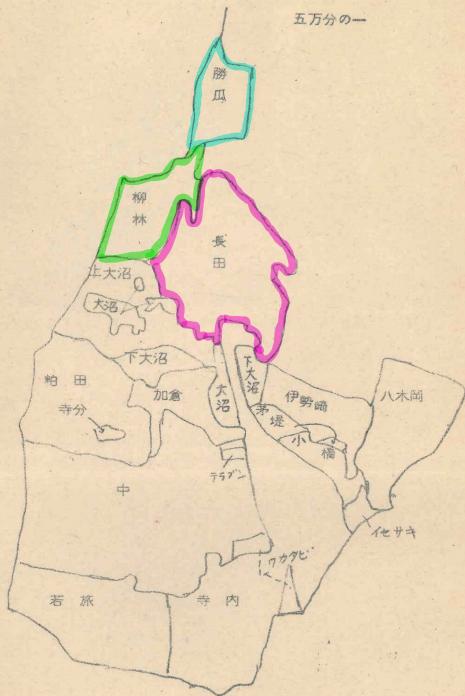
1. 自然環境を端的に表現した地名語。
2. 土地制度や税制またわ政治・軍事などに関連してつけられた法制的・政治的な意味の法制語。
3. 狩猟や漁ろうや農耕、または交換経済・共同生活など、住民の生産・流通に関連して発生した社会経済的意味の社会語。
4. 信仰・民俗・口碑・伝承・衣食住など、案ほくな生活の中から生まれた生活語。

以上の四つ中では、1の成立が最も早く、2～4は、その時代時代によって変わると思われる。また、1の地名は、2～4の地名によってその地域が次第に滅らされていったり、代わっていくものと考えられます。それは、古い書物などに書かれている地名が現在なくなっていて、はっきりした場所がわからないものがあります。また、古い方がちがったものもかると思います。

2. 大字名について

はじめに、大字名の由来について考えてみたいと思います。大字名には、小さな地名が基になっているもの。また逆に、大きな地域の地名だったものが、ある一部分の大字名になったものもあります。中村地区の大字名が、どちらのものであるのかははっきりわかりませんが、大字名を五十音順に調べてみますと、次のようになります。しかし、これは考えられるものを書きならべるだけですので、はっきりした起源ではありません。

五万分の一



◎伊勢崎 イセサキ これをイ・セ・サキにかけて調べてみると、イには水路
セには川の浅い所。淵に対することは、サキには狭間。先端などの意
味があります。これをまとめてみると「川の流れている浅い所の先端」
という意味になります。また、発音が変化したと考えみると、イセは
イソと同じ意味になり、石の意味でもある。さらに、イイの場合だと
山の方、自然堤防や段丘などの小高い所にある田や土地を意味する。
(付記・群馬県の伊勢崎は伊勢神宮に関係があるが、ここはちがう)

◎太沼 オオヌマ 字の意味のとおりで大きい沼のある所の意味である。ま
た、オには川口、オウには川口が合う所、アオには湿地。池沼のある
所などの意味があります。このことから考えると、沼のある所の近く
土地の意味ではないだろうか。上大沼・下大沼は大沼からわかれたも
のである。(大沼の古い呼び方として青沼があった)

◎粕田 カスタ これをカ・ス・ダにかけて調べてみると、カには河、スに
は砂浜、ダには田の意味がある。また、カスには一方が洲の意味があ
り、カツダには川ばたや沼地の近くにある低湿地の意味がある。これ
らのことから考えてみると「川の近くにある砂地の低湿地」の意味に
なる。

◎加倉 カクラ カクラには小さな集落・狩り場・石垣などの意味がある。
また、カにはふもと、カクにはガケ、ラには複数や親しみをあらわす
ためのことばでもある。佐藤行敬先生は「奈良時代につくられた正倉
や銭倉などの官廩のあった場所ではないか」というような意味のこと
を言われている。

◎勝瓜 カツウリ これをカ・ツ・ウリにかけて調べてみると、カには河、
ツには舟着場・港、ウリには小さい谷や川の曲ったところにみられる
湿地の意味がある。また、カツには低湿地の意味があり、カチには河
谷の平地、村落、物洗場の意味がある。ウラには畑・先端・川の上流
などの意味がある。中里先生は「カジリ」の変化ではないかと言われ
ている。川が土地をかじり取ったという意味である。

◎茅堤 カヤツミ文字のとおり茅の多い堤のある場所の意味か。カヤには
すすき・熊笹の意味があり、ツミにはため池の意味もある。このこ
とから考えてみると、茅かすすきか熊笹かはっきりしないが、そんな
ものが多い所という意味だろう。

◎小橋 コバシ 文字のとおり小さい橋のある所と考えるか、コバとシにわけて考えかてちがうが、コバには山の中で薪や草などを一時おいたり休んだりするための狭い平地、あるいは、切替畑・畑地・山間の小さな平地のそばなどの意味がある。シには本当のとか・石・ざしざし草などの意味がある。小橋が新田の名を持つところから考えると、本当の畑地（切替畑）とか、ざしざし草のある山間の小さな平地（のそば）などとも考えることができる。

◎寺内 テラウチ 文字のとおり寺内の意味か。とすれば、荘殿寺の前身である妙法寺の時に十七の功があったといわれているところから、その寺々の内に民家があつてついたものか、寺の範囲内の意味でついたのだろう。また、山すその台地などの入谷に多く見られる地名だとも、言われている。

◎寺分 テラブン もとは粕田に属していたと思われる。（粕田の中に寺分がある）ただ、粕田のうちで寺院の荘園の部分を寺分とよんだのだらうと思われる。（寺分と粕田の小字名が同じ名前が多くある）また、ブンには新田を意味する場合もある。

◎長中田 ナカ ナカには中間の意味のほか、もとの村を意味する場合がある。また、ナには土地・水などの意味があり、カには場所をあらわす意味がある。カイには狭間・貝などの意味がある。

◎長田 ナガタ 文字どおり長い田の意味か。あるいは中田の変化か。また、龍神を祭っている所の意味もある。また、ナガラには細長い地形・自然堤防・河谷の段丘などの意味もある。さらに、ナゴには小さな平地・砂地などの意味もある。

◎柳林 ヤナギハヤシ 文字どおり柳の林のあったところの意味か。ヤには谷の意、ナギには山崩れの所やカゲの意味がある。また、ヤノには湿原の意味がある。

◎若旅 ワカタビ ワカヤマト部の名を持つ人々によって開拓された土地の意味か。それが転じてなったのではないか。ただ、ワッカには水の意味、タベにはミヤケ・田荘の部民・泥地などの意味がある。

◎八木岡 ヤギオカ ヤギには川や池のほとりて岩や木の陰に魚場のあるところ（方言のヤゲ）の意味がある。あるいは柳岡の意味か。

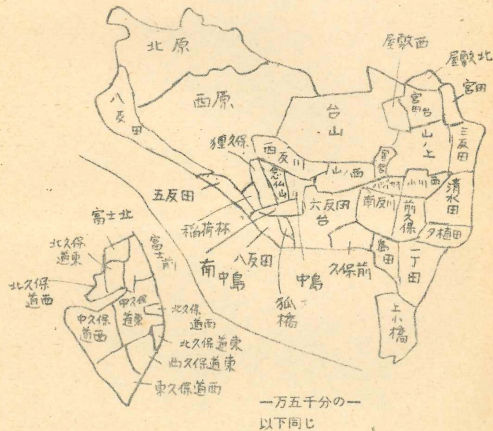
◎伊勢崎 小字名から起源になりそうなところを調べてみると、宮田台と中島が考えられる。それを書いてみると、

○宮田台を中心に、北に屋敷北、西に屋敷西、南に宮田、南に山ノ上の小字がある。宮には、神社・原野の意味があり、宮田には神社の田の意味がある。また、屋敷には、村・文字どおりの屋敷の意味がある。

（屋敷の名のおこりは、平安時代末から鎌倉時代初期と言われる）

○中島（中央の周囲より高い所）を中心に、西に念仏山、南に南中島、北に北原・西原・台山などがある。

※東西南北がつく場合は、その中心が最初に発達した所と考えられる。また、久保は、くほ地の意味であり、～反田は、その前の数の反を意味すると考えられる。清水は、泉を意味する。



富士は、フジで、高い滑らかながけ面の意味である。

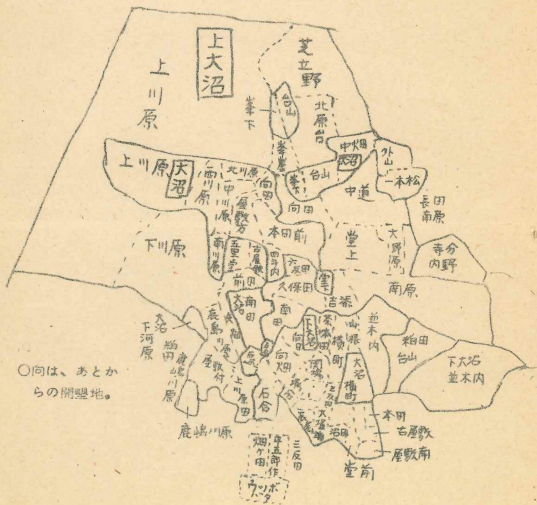
◎丈 沼 ここでは、上大沼・下大沼を含めて考えていきたい。上大沼と下大沼に、古屋敷の小字名がある。

○上大沼の古屋敷の北に大沼の屋敷方があり、その東に、本田前、北東に向田、西に中川原・西川原と続き、中川原の北に、北川原・南に南川原がある。大沼の上川原の北と西には上大沼と同じ地名がある。

○上大沼の小字名では、古屋敷の西に五里堂、南に前田がある。

○下大沼の古屋敷の東に本田、南に屋敷南、北西に堂前がある。

○下大沼には、このほかに元屋敷があり、北・西・南は粕田であるが、東に上川原田がある。また、粕田の中には、下大沼の屋敷付と本田がある
※台山の西に峰下・がけ下がかり、堂上・堂下の地名もある。(塔の意)



◎粕 田 古屋敷と二つの屋敷付がある。

○古屋敷の東に御基堂、北東にひばり内、堂前と続き下大沼に接する。

○屋敷付の一つは、下大沼の古屋敷の北にあり、もう一つは、下大沼の屋敷付の西に接している。

◎寺 分 東から清水田・中道・花の木 (はし・みさき・台地、土台・樹木)

であるが、清水田は、粕田の清水田に接し、中道も粕田の中道に接し花の木も粕田の花の木に接している。

○本田の西に屋敷付があり、粕田の屋敷付と接し、高大道も粕田の高大道に接している。

※粕田には、南宿 (江戸時代にできた部落)、伊勢崎、長田などがある。また、上越・上城、松沼・松山、などのに小字名がある。

